

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

ふつうの女の子の力

投稿日：2018.10.28 ニックネーム：やっちゃん

書店の本棚で、「ふつうの女の子の力」を見つけました。中村先生が読まれた本は、私も子どもの頃、時を忘れて夢中になって読んだ本でした。納得です！！わかる、わかる。

そして、同じ棚で見つけた「ゲノムを読む 人間を知るために」を手に取り、読んでびっくり。私の知りたいと思うことが、ここにありそうだと、思い購入しました。二年がかりでニック・レーンの「生命、エネルギー、進化」を読み終えて、命のダイナミックな運動に感動していたところです。読んだ後に世界の見え方が変わる感じです。

お返事

投稿日：2018.11.01 名前：中村桂子館長

同じ本を楽しんだお仲間であること、とても嬉しいです。このようなおんなの子の気持ちを生かせる社会にしたいとお思いになりませんか。



中村桂子の「ちょっと一言」

ゲノム編集技術についてどう考えられますか

投稿日：2018.10.19 ニックネーム：やっちゃん

環境省が9月20日に公示した「ゲノム編集技術の利用により得られた生物のカルタヘナ法上の整理及び取り扱いについて（案）」に対する意見、情報の公募受付が10月19日に締め切られました。

最近耳新しい「ゲノム編集技術」について、専門家でない一般人の私は意見を提出することは出来ません。が、素人の私の聞く限りでは、遺伝子情報を切り貼りするようなことが自然界に影響を与えないはずがないように思えます。1カ月くらいでパブリックコメントが集約できる、というのも早急です。生命誌のうえで、どのように考えられますか。

お返事

投稿日：2018.10.22 名前：中村桂子館長

「ゲノム編集」は自然の力を巧みに活用する技術であり、品種改良に上手に使っていくことが大事だと思います。ただ、社会がトランプ大統領に代表される、人類全体のことでなく自分のことだけ考えている人たちが動かされていくのですと、気になります。いつも思うのですが、大事なものは人ですね。



中村桂子の「ちょっと一言」

生命誌について

投稿日：2018.10.18 名前：伊藤千絵

生命誌は、感じることを、考えることを、生きること、を教えてくれるように感じ



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

ます。これからもっと学んでいきたいです。これからもよろしくお願いいたします。

お返事

投稿日：2018.10.22 名前：中村桂子館長

千絵さんに投稿していただいてとても嬉しいです。思ったことどんどん書いて下さい。ここはまさに日々思うことをふつうにお話する場ですから。



中村桂子の「ちょっと一言」

Re：生命誌の気持ち

投稿日：2018.10.16 ニックネーム：ミッキー

玄関で、出勤前の妻が、何か飛んだ！と大声。行って見ると若いコオロギ。捕まえて草むらに行き、放とうとしたその瞬間に、キチョウがその手に大接近！あっと思った次の瞬間には、コオロギは去り、キチョウは視野の外。残ったのは脳裏に焼き付いた鮮やかな黄色の、爽やかな印象。何んとなく嬉しい気分になりました。生きものとのこんな触れ合いは、私の小さな幸せの一つです。いろんな小さな幸せを沢山積み重ねると、自分の価値観が緩やかに変わっていく気がしています。今の世の中のお金最優先の価値観から、生きものや自分を大切にす価値観へと・・・

生命誌の世界は本当に楽しいと思います。それと、館長の「小さな決心」素敵だなと思います。私も何か一歩踏み出せばいいのですが・・・

お返事

投稿日：2018.10.17 名前：中村桂子館長

一日の始まりにコオロギやキチョウと出会う生活、すてきですね。お書き下さったことはそのまま生命誌の願いであり、おんなの子の望みです。お仲間がふえて嬉しいです。「小さな決心」の方は、中途半端な途中が問題なのですが今のところなんとか進んでいます。



中村桂子の「ちょっと一言」

「ふつうのおんなの子」から

投稿日：2018.10.16 ニックネーム：Deco

中村先生の「ちょっと一言」から、「ふつう」に生きるって物事を考える基本の「き」でないかと思ってきました。人間は文明の進歩によって便利(楽な)な方へと考えがちですが、私は72歳、免許を返納し、徒歩と公共交通で移動しています。そして、四季の変化や街並みの変化などを楽しみながら人生を楽しんでいます。

参考にならない意見で申し訳ないですが・・・

これからのBRHの活動を応援したいと思っています。

お返事

投稿日：2018.10.17 名前：中村桂子館長

「おんなの子」は女性を意味しておらず、誰の心の中にもあるものとして書きました。ですから男の方にお仲間がふえるのはとても嬉しいことです。

「歩いて、電車に乗って、まわりの街並みや自然を楽しむ暮らし」。私もこれが好きです。昨日も仕事で何う先が駅から徒歩10分から15分とあったので、歩き始めましたら方向音痴のために迷ったこともあって30分近くかかってしまいました。訪問先で「あれは直線距離での時間が書いてあるんです」と言われてナルホド。



中村桂子の「ちょっと一言」

BRHメールマガジン vol.342 新着情報

投稿日：2018.10.16 ニックネーム：みお：ペピコロンボ

上記、「タイトル」と、「カテゴリー」の件で、今回のVol. 342号で館長から『ちょっと幸せ*』という、エッセーがありました。この内容を少し調べ

ました所、今年の夏（7月20日？）「“ふつうのおんなの子”の大切さ」という題名で、館長の本が出版されていて、売れているみたいで おめでとうございます！。通販（Amazon）では 2～3週間待ちみたいですか？！。また、それに加えて、★正式には、本日（10/16（火）早朝AM3：50～10分間）「NHK視点・論点」という番組（の再放送）に、館長が自らご出演され、この心境を語られていました（録画で先ほど拝見しました）。◆私も同感です。動植物の中の人間、高等動物であるが故に、競争社会を強いられ、人間は、サイエンスの最終目標の「人間の幸せ追及」という目的のベクトルが変な方向に向いて進んでいる様に思えます。私は、宇宙の中の「地球号」で、人間が、平穩に社会と個人生活を営んでいける、バランスのとれた「全生物」の進化が必要でないかと思えます。今、館長が訴えられている様にそれは、非常に困難になってきている気がします。些細なマイナス面が積み重なって、幸せへのベクトルが違う様です。早く改善の必要性があるはずですが！ どうすれば、改善できるのか？全世界（人）で、再考し早期に実行する必要があるのではないでしょうか。

お返事

投稿日：2018.10.16 名前：中村桂子館長

「ふつうのおんなの子」は最近のキーワードになっておりあちこちで書いており、お眼にとまったことありがたく思います。一言で言うなら権力、金力、武力で威張る人のつくる社会はゴメンですという気持ちなのです。ふつうに暮らすおんなの子（男性でもこの気持ちがある方は含めて）が一日一日を大切に生きることでき上っていく社会でありたいと思っています。生命誌はそれを求めての活動ですので同感と言っていただき、お仲間が一人増えたと嬉しくなっています。これからもお考えお聞かせ下さい。



研究について

「人間は自然の一部」について

投稿日：2018.10.13 ニックネーム：ほっかいどう

先日、生命誌研究館で、生命誌絵巻・蟲愛づる姫君の屏風・ゲノムの歴史物語などにより、「人間は自然の一部」という大切な考え方についての理解をいっそう深めることができました。そして、このことはこれまでにアイヌの人々から教えていただいた「人間は自然の一部。自然に支えられてこそ生きることができる」という考え方やその考え方に基づくアイヌの人々の伝統的なものづくりにも重なりました。生命誌研究館での時間はとても貴重なものとなりました。心から御礼申し上げます。

お返事

投稿日：2018.10.15 名前：中村桂子館長

研究館へいらして下さったとのことありがとうございます。生命誌を理解していただくにはやはり来館していただくのが一番だと思っていますので、本当にありがたく思います。アイヌと重なるとのお話その通りだと思いますし、暫く前までは日本人の誰もがそのような考え方を持っていたのではないのでしょうか。「生きものとしての人間」について考えていきますので、またお気づきのこと書き込んでいただけると嬉しいのです。



中村桂子の「ちょっと一言」

生命誌の気持ち

投稿日：2018.10.02 ニックネーム：ミッキー

生命誌を学ぶようになって私の中でいろんな気持ちが増えました。例えば、1つの小さな細胞の中にある複雑で巧妙な仕組みや、すべての脊椎動物が発生途中（咽頭胚期）に一旦共通の形になる仕組みは本当に驚きです。そこに神秘的な美しさを感じます。そしてもう一つは“穏やかな気持ち”です。これは“穏やかな海”という景色から連想される気持ちでもありますが、それとは少し違うものも含んでいます。生命誌を学んで、遺伝子や生命科学の研究から明らかにされた、生きものの多様性や共通性を知り、自然界の生きものはみな繋がっているという事実を知ってから感じるようになったのがこの気持ちです。

それで、この気持ちはいったい何処から生まれて来るのだろうか？と考えました。

生きものや自然を大切に思いその存在を認めることは、結果的に、その自然の中に生きる自分の存在を認めて大切にすることになっていると気がつきまし

た。つまり、この“穏やかな気持ち”は、自分が自然を通して自らの存在価値を認めた結果の自己肯定感だと思います。ちょっと不思議な因果をたどる心の動きですが、自分を肯定できれば安心感も生まれます。そんな気持ちが私にとっての“穏やかな気持ち”です。これは今では私の大切な気持ちになっています。SNSやAIの負の側面が蔓延し始めている今の世の中に必要なものだと思います。

生命誌の裾野は多岐にわたっていると思います。これからも生命誌の中のいろいろな気持ちを感じられるように、多様な感性を育てたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

お返事

投稿日：2018.10.12 名前：中村桂子館長

生命誌を知ると「穏やかな気持ち」になる。なんと嬉しいお言葉でしょう。まさにお書き下さったことを願って研究館を続けてきましたので、お一人でもそう言って下さることをありがたく思います。こちらこそよろしくお願ひいたします。

その他

祝:ノーベル医学・生理学賞受賞（本庶 佑）氏

投稿日：2018.10.02 ニックネーム：相模のラクダ

【館長様の研究時代】：当時は、分子生物学の黎明期で、DNAの研究が始まったころ。館長と、同じ研究のお仲間（後輩）ではありませんか？。本庶 佑氏の京大時代（若いころ）の、JT生命誌研究館提供の写真（学友4人でフルートを吹くのと、米国留学時の同氏「2枚」）が本日10/2の朝刊に掲載されていました。館長のご意見・ご感想をお願いします！

昨日の夜は、そろそろ、ノーベル賞発表の日だと思い、日本時間10/1の夜PM9：30ごろ（現地の時差を考慮して）発表を待っていた所、第一日目の発表「医学・生理学賞」として、ノミネート？される、日本人の予想3人の中から、『「本庶 裕」氏：京大特別教授が、受賞しました。』と、速報が入りました。感激しました！（去年の受賞はなかったの・・・）日本人として：26人目（医学・生理学賞として5人目）は、快挙ですね！あの、「癌」の特効薬：オプジーボに繋がった：免疫制御の研究が大きく関与しているのでしょうか。この研究で、世界で多数の「命」を助けたのでしょうか。本当に、受賞おめでとうございます！また、「国」の、基礎科学研究予算も減らさず、研究者が安心して「仕事」を続けられる「生活・業務環境」作りを望みます。国民に希望を与えてもらい、本庶様 本当にお疲れ様でした。

お返事

投稿日：2018.10.04 名前：中村桂子館長

日本にはすばらしい免疫研究者がたくさんいらっしゃり、競争と協力のよい環境がありました。その中での本庶さんの受賞ですので、日本の免疫研究の評価として喜ばしく思います。私事では、本庶さんとはたまたま「生命の未来を語る」（岩波書店）という対談集があります。2003年とかなり前ですが楽しくお話ししました。

その他

受精卵「ゲノム編集」解禁

投稿日：2018.10.01 ニックネーム：ハロウィンかぼちゃ

中村館長様【ご意見、感想など お聞かせください】

まずは、超強力な「台風24号」が、昨日～本日にかけ日本を縦断して、甚大な被害を出すことでしょう。この会員の方にも被災された方がおられると思います。南関東も、深夜～AM3くらいまで暴風雨が凄かったです！まずは、被災された皆様にお見舞い申し上げます。さて、上記、タイトルの件ですが、2012年「クリスパー・キャス」手法が開発されたことにより、各分野の「ゲノム編集」の研究が活性化され、不妊治療にも貢献しています（人口減少問題は国の基本的な大きな問題です）。今回、厚生労働省、文部科学省の「有識者合同会議」が、28日：研究に関する倫理指針を了承しました（この指針のポイントは4点です）。癌や遺伝病治療に「光」が与えられ、「野菜や魚を短時間で品種改良」が可能になった一方、ゲノム編集処理後の細胞の「癌化」の恐れや、ゲノム編集研究の先行により、人への応用での「倫理面の解釈」や、「命の選択」、「デザイナーベビー」の誕生の問題につながる、との懸念も生じています。この、長短所について、機微な問題に対し、私たちは、どう解釈して、 balan

スにとって進めて 行けば良いのでしょうか？ 館長様の「私見」でも結構です。伺わせていただければ、幸いです。

お返事

投稿日：2018.10.04 名前：中村桂子館長

ゲノム編集も含めて、今急速に人間に迫る技術が進んでいます。これをどう受け止めるか。生命誌は、このような状況に備えて、「人間は生きものである」ことを実感する人々がつくる社会を求めて活動してきました。人間を機械のように見て、経済効果を第一に考えて技術を選び、一直線の進歩をよしとし格差を生み出す社会の中で、今開発されつつある技術を使うのは怖いと思っているからです。まず、生きものとしての人間を大事にしようという基本をつくること。そうでなければバランスある進め方はできないのではないのでしょうか。

[▲ ページの先頭へ](#)

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [リンクポリシー](#) | [サイトマップ](#)

 JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.